

1 単元名 羅生門の謎を解き明かそう

～『羅生門』と原典『今昔物語集』を読み比べ、作品の主題について解釈を深める～

2 単元の目標

- (1) 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕(1) ウ

- (2) 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B (1) エ

- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B (2) ウ)

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ((1) ウ)	①「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 (B (1) エ)	①作品を読み比べることを通して、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、粘り強く作品の内容を解釈する中で、自らの学習を調整しようとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本教材は、状況に左右されて容易に判断を覆しやすい若者が、善と悪、生と死の選択を悩みながら、悪だとわかっていながらも生きるためにそれを肯定してしまう人間の弱さが描かれ、長く高校国語の教育現場で親しまれてきた作品である。老婆の論理をきっかけに、下人から盗人になってしまう過程は、読み手に人間の本質とは何かを問いかけるものであり、生徒が登場人物の行動選択や心理描写を通して、現代にまでつながる普遍的なテーマについて考える契機となる。また、原典『今昔物語集』との関連を通して、古典文学と近代文学をつなぐ役割をもち、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えるという中学校国語の読解から、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、主題を解釈するという、より抽象的・批評的な高校での文学的読解への橋渡しとなる。社会科の歴史分野で学ぶ平安京の都の状況が物語の背景理解を支え、道徳で扱う善悪の倫理観の問題とも結びつき、横断的な学習を促す教材である。

(2) 生徒観

本単元の学習前に、文学作品の読解についてアンケートを実施したところ、文学作品を読むのが「好き」と回答した生徒は全体の**%、「苦手」が**%、「どちらでもない」が**%という結果であった。文学作品の読解に対する興味が見られない生徒が*割近くを占めている。4月には小説『とんかつ』を授業で扱っており、登場人物の心情や物語の展開などを叙述を基に把握することについては学習しているが、授業中の様子から、文学作品の主題について内容の解釈を深めることに課題があると見受けられる。

(3) 指導観

本単元では、『羅生門』と原典『今昔物語集』を読み比べ、作品のテーマについて解釈を深めることを目標としている。主な手立てとして、読み比べる視点を提示したワークシートを作成し、グループワークを取り入れた言語活動を設定する。原典との本作品との違いは細かい箇所をいれると多数あるため、わかりやすく時系列、項目ごとにまとめたワークシートを作成し、読み比べる際に活用する。これにより、ただ原典との違いを見つけるのではなく、そこから先の主題を考察する活動に重きをおくことができるようにする。また、グループワークを取り入れた言語活動を行うことで、個人活動では考察することのできなかった新たな視点から多角的に主題を捉え、文学作品の中の多層的な主題構造やさまざまな読みについて考えを深められるよう促す。

6 単元の指導計画(10時間扱い)

○は指導に生かす評価 ◎は記録に残す評価

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	学習課題 『羅生門』には、どんな謎があるだろう。 - 本作品を読んでいて不思議だと思ったところ(=謎)を考えることを確認し、単元の見通しをもつ。 - 映像教材を見て、本作品のおおまかな内容や舞台背景、作者の生涯について学習する。				- これまでの授業で扱った文学作品を振り返りながら、文学作品についてどのようなイメージをもっているか、Google formに入力して共有する。 - 映像教材の中で原典について紹介されている箇所は、特に本単元に関わるため重点的に確認する。
	2	本文を通読し、特徴的な語彙に関してはクロスワードを埋めながら確認する。	○			知①：特徴的な語句について、文中での意味や用法をワークシートにまとめているか見取る。つまり知っている生徒には、該当の語句について補助プリントの記載箇所を示し、まとめるよう促す。 【ワークシート】
	3	初読の感想として、項目ごとに気になった点や疑問に思った点(本作品の謎)について、スプレッドシートにまとめる。 【項目】・下人について ・老婆について ・表現について まとめ 『羅生門』には、下人や老婆の行動や心情などの謎があった。謎を解明するためには、原典と比較して読み、作者の意図を知る方法が有効である。			○	態①：初読の感想を入力しようとしているか見取り、つまり知っている生徒には個別の声かけをする。 【観察】 謎を解明するために本文を読む以外にどのような方法があるか考えられるように促す。

		K 結末 今：主人公が他の人に語ったので、話が広まった。 羅：下人の行方は誰も知らない。 まとめ 『羅生門』と原典を比較すると、情景描写や、人物の言動や心情の描写に相違点があることがわかった。『羅生門』だけに描かれた場面もあった。 例) ・下人が盗人になるまでのプロセス ・下人の心情の変化 ・老婆の悪を正当化する論理			・最後の一文は何度も作者によって書き換えられていることを示し、末尾の一文の効果を考えるよう促す。 ・『羅生門』と原典を比較することで見えてきた相違点は、生徒が初読の段階で挙げた本作品の疑問点(=謎)と重なる部分が多いことに気づき、次時への見通しをもつよう促す。
3	9	目標：『羅生門』と原典『今昔物語集』を読み比べ、作品のテーマについて解釈を深める。 学習課題 『羅生門』の謎を解き明かすことで、どのような発見があるだろう。 ・『羅生門』の初読の段階で挙げた謎を振り返りながら、『今昔物語集』との違いについて確認してきた項目をまとめ、学習の見通しを持つ。 《全体》 ・自分の担当を確認し、原典との比較から『羅生門』の主題を考察し、ワークシートに記入する。 《個人》 ・担当ごとに班になり、意見を共有しながら、グループでスライドに考察をまとめる。 《グループ》 ・各班の発表から見えてきた『羅生門』の主題をキーワードでまとめる。《全体》 例) ・状況に左右されてしまう若者の脆さ ・善と悪の判断 (倫理観) ・生きるためにする選択 ・人間の弱さ(利己主義・エゴイズム) まとめ 謎を解き明かすことで、登場人物の心情の変化や言動の意味、人物像などを深く読み取れることを発見した。		◎	・生徒が初読の段階で挙げた『羅生門』についての謎を振り返りながら、ワークシートのA～Kの項目を下人について、老婆について、表現についての3つに分類して、わかりやすく示す。 思①：作品の成立した背景や原典との関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 【ワークシート、スライド】 知①：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、主題をまとめる文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【ワークシート】 ・各スライドからキーワードを抽出することで、作品の中に多層的に伏在している主題について考えることができるようにし、次回の学習への見通しをもつよう促す。

4	10	学習課題 解き明かした謎は、『羅生門』全体にどのような関わっているだろう。 ・前回まとめたキーワードを文章にして、『羅生門』の主題をまとめる。 例)・『羅生門』は、状況に左右されて容易に判断を覆しやすい若者が、善と悪、生と死の選択を悩みながら、老婆の論理をきっかけに、下人から盗人になってしまう物語。 ・悪だとわかっているにもかかわらず、自分が生きるためにそれを肯定し、実践してしまう人間の弱さ(エゴイズム)が描かれている。 ・これまでの学習を振り返りながら、現代にまでつながる普遍的なテーマについて自分の考えを深める。 例)・人生の選択や判断の難しさ ・人間の心の奥にある弱さは現代の私たちと変わらない。 まとめ 『羅生門』と原典の違いは、作者が意図して描いたものである。解き明かした謎を踏まえて読むと、作者のものの見方、感じ方、考え方をより深く捉えることができる。 また、原典と比較して読むことは、現代にまでつながる普遍的な作品の主題を捉えることにもつながる。 単元全体の学習を振り返る。 振り返り 文学的な文章を読む際には、文章の成立した背景や他の作品との関係を踏まえながら、内容の解釈を深めていくことが大切であるということがわかった。			◎ 態①：作品を読み比べることを通して、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、粘り強く作品の内容を解釈する中で、自らの学習を調整しようとしている。【ワークシート】 ・机間指導で声かけをしながら、現代にまでつながるテーマについて考えることができている生徒の考えを取り上げ、クラス全体に共有する。 ・本作品の主題は現代の我々にもつながる心情であり、今もなお高校生の教科書に掲載され、大人と子どもの狭間で葛藤する若者の心を動かしていることを確認する。
---	----	---	--	--	--